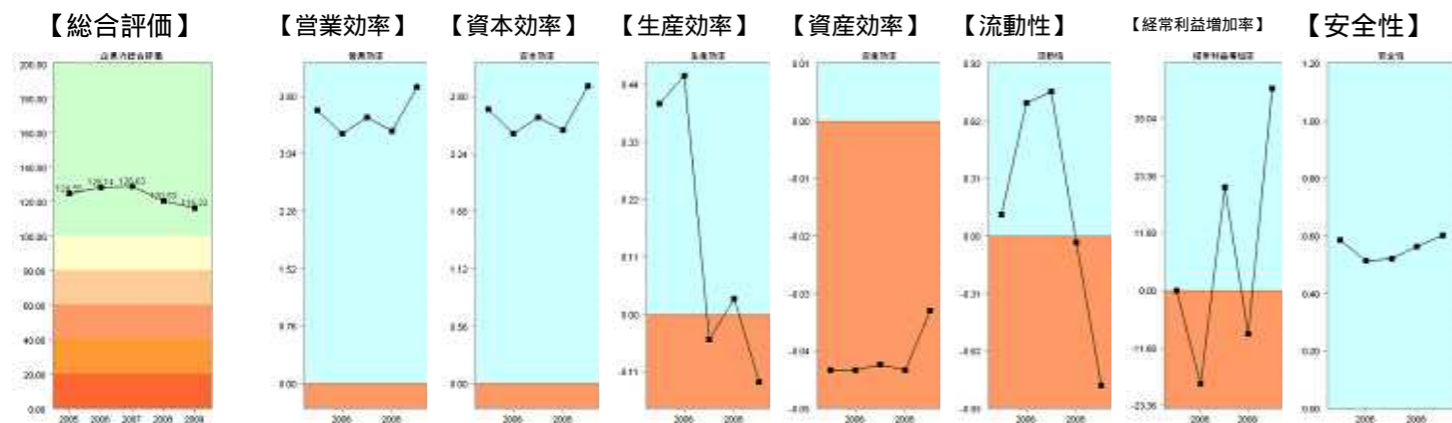


今回はオリエンタルランドを分析してみましょう。東京ディズニーランドのチケット代は他のテーマパークより高いため、デフレ、節約志向の現在はどうなっているのでしょうか。ミッキーが不景気でシヨンボリしていたのでは、夢がありませんね。



総合評価は 120 ポイント台から 2009 年 3 月期に 116 ポイントに落としました。下落原因は営業効率から安全性までの親指標のうち、急激に下落している指標です。

生産効率（人の利用度の指標）、流動性（短期資金繰り指標）の下落が総合評価を下落させた原因であることが分ります。

営業効率（儲かるかの指標）、資本効率（資本の利用度の指標）、資産効率（資産の利用度の指標）、安全性（長期資金繰り指標）などは改善していますから、それらを相殺してもなお、総合評価を引き下げた訳です。

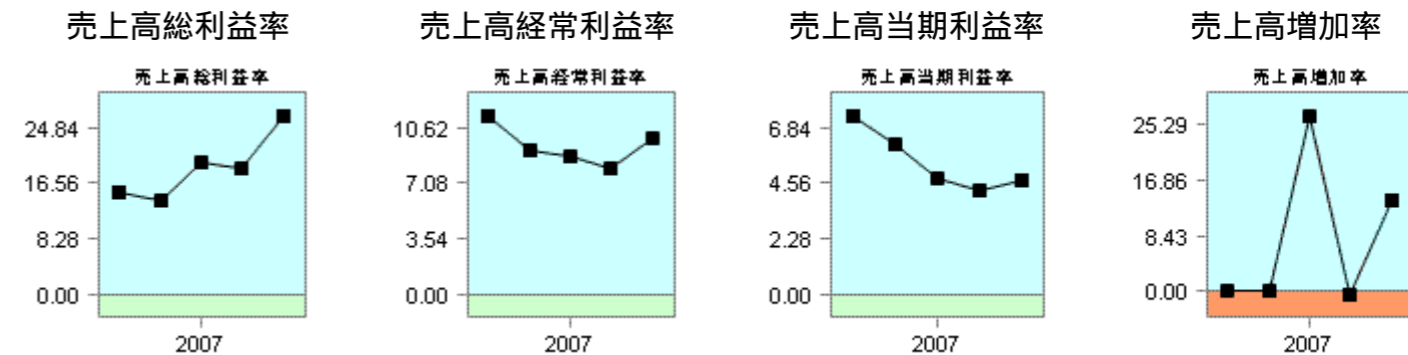
流動性の下位指標 単位: 百万円・%

	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月	2009年減少額
流動負債合計	71,280	93,751	73,520	169,907	111,207	58,700
流動資産合計	81,284	127,290	103,725	180,554	88,199	92,355
流動比率	114.03	135.77	141.08	106.27	79.31	
当座資産	64,655	96,840	82,075	157,975	66,636	91,339
当座比率	90.71	103.29	111.64	92.98	59.92	
現金預金	46,181	46,351	25,393	52,403	15,420	36,983
現金預金比率	64.79	49.44	34.54	30.84	13.87	

比率指標は中央に配置している。

2009 年 3 月の流動性の下落は、第 1 回無担保社債の償還（100,000 百万円）により、流動負債が減少し、有価証券・現金預金などを減少させたために起こりました。また、2009 年 5 月に第 6 回無担保社債 20,000 百万円の償還予定があり、ワンイヤールールにより固定負債から流動負債に振替えました。2009 年 3 月の流動資産が 92,355 百万円減少に対し、流動負債の減少は少なくなっています。わずか 1 年あまりの間に 120,000 百万円の巨額な社債償還があり、流動比率は赤信号領域にハマってしまいました。

営業効率の下位指標（売上高総利益率、売上高経常利益率、売上高当期利益率）と、売上高増加率のグラフを見ていきましょう。



営業効率は反転しながらも改善トレンドです。改善トレンドを牽引しているのは売上高総利益率です。グラフを見比べていて、何か気付きませんでしたか。そう、売上高増加率がプラスの時、売上高総利益率が増加しているのです。何が起きているのでしょうか。

営業効率の下位指標を示しておきます。

単位: 百万円・%

	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
売上高合計	271,435	272,039	344,082	342,421	389,242
売上総利益	41,220	37,862	67,227	64,548	103,092
売上高総利益率	15.19	13.92	19.54	18.85	26.49
営業利益	27,299	23,755	34,111	31,145	40,097
売上高営業利益率	10.06	8.73	9.91	9.10	10.30
経常利益	30,780	24,950	30,188	27,511	38,825
売上高経常利益率	11.34	9.17	8.77	8.03	9.97
当期利益	19,811	16,680	16,310	14,733	18,089
売上高当期利益率	7.30	6.13	4.74	4.30	4.65

比率指標は中央に配置している。

2007 年、2009 年の売上高が増加したのは、テーマパーク事業（ホテル事業を含む）です。2007 年、東京ディズニーシーでは、7 月よりスタートした東京ディズニーシー 5th アニバーサリーで 12,867 百万円増加、2009 年は、東京ディズニーリゾート 25th アニバーサリーのイベント実施により 61,487 百万円増加しました。

テーマパークの入場者数やホテル宿泊者の増加により、売上が上がり、売上高総利益率の急改善が起きている。既存事業の売上を上げると売上総利益率は改善します。平たくいえば「商品を磨く」かもしれません。

東京ディズニーランドを磨きながら、新規事業（シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京、イクスピアリなど）も立ち上げて、次の成長を狙っています。

まとめ

他社の成功を調べる場合、数字で「成長しているかどうか」を検証すべきでしょう。この場合、「売上が上がっている」だけではいけません。売上が上がっていても「売上高利益率が下がった」「流動性が悪化した」など総合的に見れば、企業力総合評価は下がっているかもしれません。お正月休みにご覧ください。

「トップコンサルタントの計数力」同友館 ¥1,680



編集後記 仕事帰りに東京ディズニーランド帰りの家族連れを見つけます。今度、娘を誘って行ってみよう!!!

来年もよろしくお願いたします。(^.^)/~~~

文責 JY

541-0054 大阪市中央区南本町 2-3-12 エイディビル 12 階 株式会社 SPLENDID21

tel 06-6265-8621 fax 06-4964-4164 info@sp-21.com <http://sp-21.com>